

◆ 第2回熊本地震災害ボランティア活動を、「熊本市」において実施。



(終了時間帯が異なったため、参加者一部による記念写真。肩には「災害ボランティアセンター」のシールを表示)

筑後信用金庫災害ボランティア部隊は、参加者9名で活動しました。

今回の「第19回災害復旧ボランティア活動募集」は、当初活動場所に益城町を予定していましたが、情報収集不足及びその他諸事情により急遽、熊本市内へ場所を変更しました。

今回の活動は、依頼ニーズ17件に対しボランティア活動者67名（熊本市ボランティアセンターfacebookより）となり、また初参加の方が多かったようでした。連日の猛暑日のなか、本日も例外なく猛暑の中での活動となりました。

活動は、3件の依頼ニーズに対し、私たち9名が挙手をして3班に分かれました。

(1) 1班(2名)… 他のボランティア団体参加者4名と合流し、個人住宅から仮設住宅への引っ越し作業をしました。

今回行った仮設住宅は、学校グラウンドの端に約18戸確保されていました。その中の一戸(2LDK)へ、老夫婦2人暮らしの戸建て住宅から、冷蔵庫、仏壇、ベット及びタンスなどを運びました。子供さん夫婦も手伝いに来られていましたが、皆さん非常に喜んでいただきました。

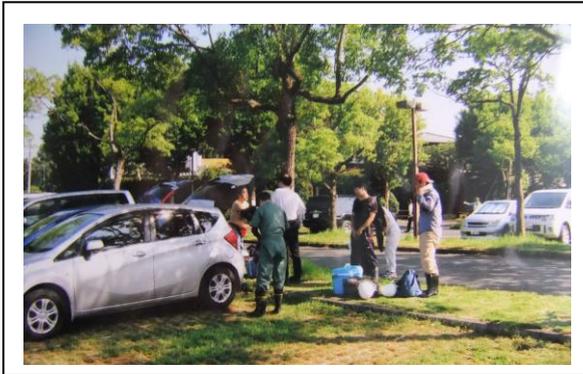
(2) 2班(3名)… 高齢者ひとり暮らしのアパートにおいて、地震で倒れたタンス・戸棚及び家電製品の片づけと清掃を行いました。ご本人自身が病弱で、片づけができない状態であったため、すごく喜んでいただきました。

(3) 3班(4名)… 他のボランティア参加者6名と合流し、避難所における3階から4階への移動及び清掃作業を行いました。

避難所には、数か所に部屋が分かれて、段ボールを利用した間仕切りスペースがあり、20名程度が避難されていました。徐々に避難者が減少する中、別の階へ場所集約のための移動となったもので、年配の方が多いため、荷物運びなど感謝されました。

仮設住宅、避難所生活ともにまだまだ継続すると思われていますが、被災者の皆様が猛暑日のなかで、健康に十分気をつけられ、早く元の生活に戻られることを願っています。

今回も、個人宅・避難所での作業となったため、作業状況の写真撮影を控えました。



(受付会場にて準備する当金庫職員)



(テントの中でオリエンテーション待ち)



(スタッフによるオリエンテーション)



(仮設住宅風景)

皆様、猛暑の中、大変お疲れ様でした。

次回も、一緒に頑張りましょう。